

令和1年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800678	事業の開始年月日	平成16年8月1日
		指定年月日	平成16年8月1日
法人名	医療法人 活人会		
事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう		
所在地	(224-0034) 横浜市都筑区勝田町651番地		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和1年11月20日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアマネジメントの取り組みにおいて、アセスメントやケアプラン作成・モニタリングの際に、ご家族(参加できる方は入居者自身)に積極的に参加していただき、入居者の現状と一緒に把握しています。このことにより、現在の入居者ご本人の生活における希望や意欲・可能性・課題などに対して一緒に考えたり、支え合う体制を心がけています。入居者の生活を支えるのは、スタッフだけではなく、ご家族や入居者同士の協力が不可欠であることを大切に、また入居者より様々なこと教えていただいたり学ぶ機会といった支えられている部分も多くあります。お互いが支え合い楽しく暮らしているのが、「横浜ゆうゆう」です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和1年12月13日	評価機関 評価決定日	令和2年2月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は横浜の地下鉄センター北駅から徒歩から法人の送迎バスで10分のところにある。近くには法人のクリニックや介護老人保健施設のある都筑ハートフルステーションがあり、周囲は工場や新興住宅街である。南に面した広い庭には果樹や花壇、小さな畑などがあり四季折々の移り変わりが楽しめる。

【みんなで作る介護計画】
介護計画作成には職員も加わり検討している。計画書も事業所独自のものを使用し、夜間のケアにも言及している。アセスメントも利用者各自に聞いており、センター方式の書式の中に書き込まれ職員全員が共有できる工夫をしている。また利用者家族も半年ごとのカンファレンスに居宅担当職員と共に参加し介護計画の作成に参画している。

【認知症に関する啓もう活動】
管理者や職員は認知症の専門家として、地域に啓蒙活動を行っている。認知症サポーター講座や認知症カフェへの協力など日常的に行っている。またハーブやファゴットの定期演奏会を開き、利用者と共に懐かしい歌を聴いたり、絵画を見ながら旅行の思い出や感想などを話し合うアートコンダクターによる「アートリップ」という新しい回想法などを取り入れたりしている。若年性認知症の職員を雇うなど新しい試みにも積極的に取り組んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう
ユニット名	あすか

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より地域に根付いたグループホーム運営を心がけており、近所やボランティアの方々のお付き合い、行政との積極的な連携をおこなっている。	法人の理念の他に開設時に作られた事業所の理念がある。今年15周年の記念祭で理事長から理念についての話があった。職員は会議の折や支援中に迷った時などに、理念に立ち返り考えるようにしている。理念は事務室に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、年中行事に参加している。また、運営推進会議や、地域ケア会議などで、地域の現状と課題および相互扶助の関係性を把握している。	町内会に加入し、敬老会や獅子舞などの行事に利用者と共に参加している。利用者は法人が運営する保育園の運動会や餅つき大会に招待され、散歩の折などに園児とも挨拶を交わしている。小学校や中学校、看護学校などと協力し、学生の受け入れや認知症サポーター講座の講義などを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	都筑区にある認知症サポート連絡会の会員として、認知症に関する普及・啓発に積極的に努めている。また、運営推進会議でも様々な取り組みを報告し、地域へ発信する努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方より豊富なアイデアをいただき、自事業所のサービスに反映したり、地域への認知症の普及啓発へ繋げたりしている。	年6回開催し、民生委員、地区社会福祉協議会事務局長、地域包括支援センター職員などの出席を得ている。クリスマス会や記念祭と同日に運営推進会議を行い、利用者家族の参加を促している。団地の高齢者問題や見守りプロジェクトのことなど地域の事も話し合われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症サポート連絡会などで密に連携を取り合い、事業所だけでなく地域単位で認知症に関するさまざまな取組みをおこなっている。	区の認知症サポート連絡会でフォーラムの企画や認知症に関する啓発活動を行っている。管理者や職員は市の講演会の講師なども務めている。地域包括支援センターからは利用者の入所の相談などがある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を実施しない取組みを積極的におこなっている。また、常に会議などで理念に基づき話し合いを持っている。	管理者と計画作成担当者2名の計3名で高齢者虐待廃止委員会を開催している。5月に今年度の課題として言葉かけを選び、7月に現状を分析し、8月に丁寧な言葉かけを職員に注意喚起した。10月に行った実施後のアンケートで、多く挙げられた反省点をもとに、返答する事が難しい利用者に対して、より丁寧な言葉かけをしてからの支援を徹底する事にした。門扉は施錠しているが、玄関やユニットは開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、内部では職員会議、事故報告書などで常に虐待に繋がらないような話し合いをもっている。職員間のチームワークを大事にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理念にうたっている通り、個人の権利を常に大切にしながら、職員会議で話し合いを持ち、ケアに反映している。定期的に研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接の際・内容の改定の際には、必ず説明し、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日々の様々な意見などについて迅速に対応したり、運営推進会議にも参加していただいている。ご家族は面会時・家族とのカンファレンスの際などに意見を伺い、運営に反映している。	記念祭やクリスマス会と同日に運営推進会議と家族交流会を行っている。半年ごとに個別に面談があり介護計画やカンファレンスを家族と共に行う事になっている。面会も多くそのたびに話を聞いているので常に意見を聞く機会がある。おやつ代の請求に関する意見をもらい、改善することになった。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	計画作成担当者会議、職員会議等の場で多くの意見を聞く機会を作っている。法人の会議やグループホーム経営会議に職員会議の意見を報告したりしている。	2週間ごとに職員会議があり、職員は常に意見が言える環境にある。毎年年間目標を立てる機会があり、皆で話し合っている。今年度は業務マニュアルを変えたいという意見があり、職員全員で見直しをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の年次目標に向けての日々の勤務態度などを面接、合同職員会議を通じて把握している。福利厚生などにも力を入れている。人事評価制度を導入している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に参加し、研修を通して学んだことを現場に活かして頂けるよう期待している。自施設でも全体職員会議などを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や横浜グループホーム連絡会のブロック会などに参加する機会を設けており、地域における同業者などとの良好な関係性の構築に繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、入居後も細かい観察などよりご本人の状態をしっかりと把握し、住みよい居場所作りを心がけている。可能な限り複数の職員での面接を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、ご家族の意向などもしっかりと伺うように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接と入居時の状態を踏まえ、早期に生活に慣れていただく事を主眼にケアを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の意欲や可能性などを信頼し、多くの事を学ばせてくれているという敬いの気持ちを忘れないように対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と面会時や家族カンファレンス時など多くのコミュニケーションをとるようにして、利用者を中心として支え合う体制を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会、外出、外泊などを積極的に推進している。現実的にも多くのご家族が面会に来られたり、外出・外泊の機会も見られている。	以前からの馴染みの美容院や歯科医院への継続利用を支援している。演奏会やイベントを多く開催し、家族が来訪する機会を作っている。お正月を家族と共に過ごす利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の重度化が進んできており、利用者同士が関わり合うというのが難しくなってきたが、リビングや日光浴などで共に過ごしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙などのやりとりで関係性が継続していたり、電話での介護相談、新規入居希望者の相談などを受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを基に職員間・ご本人・ご家族で話し合いを持ち、本人本位の視点のケアプラン作成を心掛けて対応している。	家族からの情報や本人の言葉を基にセンター方式を使いアセスメントを充実させるようにしている。入浴時や夜間一人の時などに利用者の思いを聞くことがある。居室担当の職員は特に家族とのコミュニケーションを大切にしており、家族からの情報も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族よりバックグラウンドシートを記してもらい、それを基に、継続的なケアを心がけている。入居前に介護サービスを利用されていた方はケアマネに情報提供依頼をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジメントの流れを大切にして、日々の暮らしを支えながら、状態の把握にも努め、新しい発見などを次につなげるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジメントの流れの中で本人や家族との話し合い、職員同士との話し合いの機会を作っており、意見を共有した中でのケアプランを作成している。	月に2回の職員会議で介護計画書の検討会を開いている。利用者とマンツーマンの時に聞き取ったり、アクティビティなどで得られた情報を半年ごとに家族や居室担当を交えてのカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。介護計画書はいつでも見られるよう事務室に置いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に力を入れ、誰が見ても状態が把握できるようになっている。また、ケアプランの見直しの際にも大変有効的である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスだけでなく、様々な社会資源を紹介したり、多世代交流の時間を大切にしたり常に工夫をしている。ニーズに応じたボランティアなどの導入を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の年中行事に積極的に参加して楽しまれたり、民生委員やボランティアさんの多くの協力を得て、充実した時間をすごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より主治医に関する確認をとっており、ご本人やご家族の希望に沿っている。日頃のケアの気づきなどの情報提供などを随時おこなっている。	協力医療機関の訪問診療を利用する利用者が大半である。協力医以外の受診は原則家族対応ではあるが、職員が通院に同行する場合もある。法人の看護師が週に1度来訪するほか電話での相談にも乗ってくれる。居室にノートを置き医療報告を家族とこまめに連絡する場合もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で契約している看護師や診療所の看護師と日頃より連携を持ち対応している。また、24時間のオンコール体制もとっている。より密な連携をとれるよう、情報共有の仕組みなどを検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を提出し、入居時の状態を把握していただくよう配慮している。また、入院後は定期的に病状の説明を依頼したり、面会を密におこない、状態を把握し早期の退院につながるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前より条件が整えば看取りまでおこなうことを説明しており、終末期においては主治医を含め方向性を定めるようにしている。継続して方針の共有、課題の抽出に取り組んでいる。	入居前に「重度化・看取り対応の指針」であらかじめ説明を行っている。医師が終末期と判断した場合は、管理者も同席し医師から説明を受ける。家族が看取りを希望した場合は方針を決め、改めて同意書を受け取る。今年度は2名の看取りを行い、そのたびに職員から振り返りアンケートを提出してもらい、話し合いを持っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の機会を作ったり、マニュアルなどを作成し、会議で確認するなどの対応をしている。職員の研修受講ニーズが高いので、調整している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、夜間想定 of 避難訓練を実施。法人の災害対策委員会で自然災害に対するマニュアルなどを作成し、勉強会も実施している。	10月の運営推進会議の折に民生委員立ち合いの下、夜間想定 of 火災訓練を行った。今年度は、この後1月に地震、3月に火災の防災訓練を実施する予定である。水害の危険があるため、10月の台風時に利用者全員が法人の老人保健施設へ1日避難した。その際の経験を活かし、次回からは、事前避難も含めた避難訓練を行いたいと考えている。備蓄を2階に移動中である。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、また言葉による虐待などにも配慮しながら対応をおこなっている。	一人ひとりを大切にするという理念の下、利用者の立場に立ったケアを心掛けている。今年度は課題として言葉づかいを取り上げ、重度化し言葉を失っている利用者に対しても支援に入る前の言葉かけを意識し実践している。個人情報を含む書類は事務室の書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を伺い、出来るだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。また、アセスメントなど「できること・わかること」も把握し、意欲を引き出すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを基に、個々人の生活リズムを大切にしながら充実した生活を送れるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を意識し、また整容する効果で、利用者の方が生き活きとされることを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前より嗜好調査をおこない、入居後も観察をしたり、利用者に向いながら配慮している。誕生日会に好きな料理でお祝いしたりしている。調理など出来る方がいないが、味や香りなど食を楽しめるよう工夫している。	1、2階とも食材を配達してもらい、2階に関しては調理時間が短縮できる食材を依頼している。重度化が進み半数以上の利用者はミキサー食となっている。職員は食事介助を丁寧な言葉をかけながら行っていた。お誕生日会には食べたいものをリクエストして貰い提供している。クリスマス会や記念祭は家族と共に食事会が用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日チェックしている。個別の食形態に配慮している。献立は外部業者に委託。必要に応じ、高カロリーの栄養剤なども導入。水分摂取量はチェックが必要な方を対象に実施し、健康管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じた支援をおこなったり、訪問歯科診療のアドバイスなども受けながら対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用い、個々人の状態を把握して出来るだけ失敗による不快や自尊心低下の防止・生活保持に努めている。	各ユニットに3か所のトイレがあり、うち一つは脱衣所に直結している。排泄チェック表をつけ、個別に誘導を行っている。誘導を行うときは耳元で声掛けし、自尊心を傷つけないよう配慮している。なるべくオムツにしないよう自立の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動など便秘に対して有用で生活の中で工夫できる事を多く取り入れている。看護師のアドバイスなども組み込んでいる。もう少し運動などができる機会を取り組んでいく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとり、のんびりと入浴して頂く事を心掛けている。曜日・時間帯の配慮まではなかなか出来ていないのが現状である。安全面で福祉機器などの導入も検討も随時している。入浴が難しい人も増えてきている。	週に2回以上の入浴ができるよう努めている。重度の利用者にはシャワー浴を行い、適宜、足浴を実施する利用者もいる。入浴が好きではない利用者にも無理強いしないよう努め、時間や職員、雰囲気を変え誘導している。入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯を使うなど楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前のにんびりとした時間を作ったりしている。安眠できるように午前中の日光浴などを心がけている。また適宜個別に昼寝などもおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用は、医療従事者に判断をおおぎ、観察に努めている。薬の内容や服用後の観察は適切におこなえるよう対応をしている。職員の知識の向上に努めていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを基に、ご本人の意欲向上につながる取り組みを日々おこなっている。個別や集団で楽しんだり、役割を担っていただいたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り自由に出かけられる環境を整備している。本人の意向に応じた外出支援もおこなっている。また、ご家族の自発的な協力も多く見られている。	天気の良い日は散歩に誘い、車いすの方もマンツーマンで散歩している。庭には花や果樹、野菜などが植えられ、利用者も散策を楽しみにしている。保育園の行事、花見や紅葉狩りなど外出行事を行っている。買い物などにも一緒に出る機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持などは能力に応じて行っている。また、使用時も同様。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えたり、手紙のやりとりも自由にとれるような対応になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系の電球を用い、暖かみを装っている。また、リビングの壁に季節の切絵などを飾ったりしている。声・足音・テレビの音量、衛生面など「不快」を「快」にすることを常に意識して対応している。	1階の吹き抜けの玄関や廊下、居間などはゆったりと作られ、年季の入った家具や茶箆、筆などが置かれ、落ち着いた雰囲気を出している。季節の生花や、花の絵、花の写真など利用者が好きな物を飾っている。訪問時は季節柄クリスマスの飾りつけもあった。廊下の端や中間に椅子やソファが置かれている。トイレは文字を大きく表示するなど工夫している。	建設から15年経ったせいもあるとは思いますが、床などの汚れが目立ちます。荷物なども雑然と置かれていますが、創意工夫で気持ちの良い空間ができることを期待しています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	さりげなくソファをおいたり、リビングよりあえて見えにくい場所を何か所か設け、活用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、使い慣れたもの・愛着のあるものを持ってきていただき、且つ混乱しない事が「家」として重要な要素であることを説明しながら、工夫している。より過ごしやすいよう衛生面、整理整頓に努めていく。	各ユニットに和室が6室、洋室が3室あり、エアコン、クローゼットは備え付けとなっている。居室は南向きが多く、大きな窓もあり明るい。利用者は仏壇や椅子、机などを持ち込んでいる。表彰状や写真、好きなポスターやカレンダーなどが壁いっぱい飾られ、それぞれの個性を出している。居室担当の職員がおり、家族と相談して配置をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極端な施錠などは一切行わず、能力に応じた安全配慮を行っている。また、身体の障害に適したバリアフリー構造・場所が分からない方に対し目印をしたりの工夫を行っている。		

事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう
ユニット名	やまと

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より地域に根付いたグループホーム運営を心がけており、近所やボランティアの方々とのお付き合い、行政との積極的な連携をおこなっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、年中行事に積極的に参加している。また、運営推進会議や、地域ケア会議などで、地域の現状と課題および相互扶助の関係性を把握している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	都筑区にある認知症サポート連絡会の会員として、認知症に関する普及・啓発に積極的に努めている。また、運営推進会議でも様々な取り組みを報告し、地域へ発信する努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方より豊富なアイデアをいただき、自事業所のサービスに反映したり、地域への認知症の普及啓発へ繋げたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症サポート連絡会などで密に連携を取り合い、事業所だけでなく地域単位で認知症に関するさまざまな取組みをおこなっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を実施しない取組みを積極的におこなっている。また、常に会議などで理念に基づき話し合いを持っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加したり、内部では職員会議などで常に虐待に繋がらないような話し合いをもっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理念にうたっている通り、個人の権利を常に大切にしながら、職員会議で話し合いを持ち、ケアに反映している。定期的に研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接の際、内容の改定の際には、必ず説明し、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日々の様々な意見などについて迅速に対応したり、運営推進会議にも参加していただいている。ご家族は面会時・家族とのカンファレンスの際などに意見を伺い、運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	計画作成担当者会議、職員会議の場で多くの意見を共有できる機会を作っている。法人の会議に職員会議の意見を報告したりしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の年次目標に向けての日々の勤務態度などを面接、合同職員会議を通じて把握している。福利厚生などにも力を入れている。人事評価制度を導入している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には可能な限り参加できるようにしている。自施設でも全体職員会議などを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や横浜グループホーム連絡会のブロック会などに参加する機会を設けており、地域における同業者などとの良好な関係性の構築に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、入居後も細かい観察などよりご本人の状態をしっかり把握し、住みよい居場所作りを心がけている。可能な限り複数の職員での面接を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、ご家族の意向などもしっかり伺うように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接と入居時の状態を踏まえ、早期に生活に慣れていただく事を主眼にケアを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の意欲や可能性などを信頼し、多くの事を学ばせてくれているという敬いの気持ちを忘れないように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と面会や家族カンファレンス、行事の際など多くのコミュニケーションをとるようにして、利用者を中心として支え合う体制を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会、外出、外泊などを積極的に推進している。現実的にも多くのご家族が面会に来られたり、外出・外泊の機会も見られている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングやソファで皆で話や歌、体操を楽しんだり自発的な場面が見られ、社会性も生まれている。行事などを通じ家族間のつながりも深くなり支援の幅が広がっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙などのやりとりで関係性が継続していたり、電話での介護相談、新規入居希望者の相談などを受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを基に職員間・ご本人・ご家族で話し合いを持ち、本人本位の視点のケアプラン作成を心掛けて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族よりバックグラウンドシートを記してもらい、それを基に、継続的なケアを心がけている。入居前に介護サービスを利用されていた方はケアマネに情報提供依頼をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジメントの流れを大切にして、日々の暮らしを支えながら、状態の把握にも努め、新しい発見などを申し送りや会議で次につなげるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジメントの流れの中で本人や家族との話し合い、職員同士との話し合いの機会を作っており、意見を共有した中でのケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りに力を入れ、誰もが情報を把握できるようになっている。カンファレンスやケアプランの見直しの際にも大変有効的である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスだけでなく、様々な社会資源を紹介したり、多世代交流の時間を大切にしたり常に工夫をしている。ニーズに応じたボランティアなどの導入を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の年中行事に積極的に参加して楽しまれたり、民生委員やボランティアさんの多くの協力を得て、充実した時間をすごせるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より主治医に関する確認をとっており、ご本人やご家族の希望に沿っている。日頃のケアの気づきなどの情報提供などを随時おこなっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で契約している看護師や診療所の看護師と日頃より連携を持ち対応している。また、24時間のオンコール体制もとっている。より密な連携をとれるよう、情報共有の仕組みなどを検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を提出し、入居時の状態を把握していただくよう配慮している。また、入院後は定期的に病状の説明を依頼したり、面会を密におこない、状態を把握し早期の退院につながるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前より条件が整えば看取りまでおこなうことを説明しており、終末期においては主治医を含め方向性を定めるようにしている。継続して方針の共有、課題の抽出に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の機会を作ったり、マニュアルなどを作成し、会議で確認するなどの対応をし、実践につなげている。職員の研修受講ニーズが高いので、調整している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、夜間想定避難訓練などを実施。法人の災害対策委員会で自然災害に対するマニュアルなども作成し、勉強会も実施している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、また言葉による虐待などにも配慮しながら対応をおこなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を伺い、出来るだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。また、アセスメントなど「できること・わかること」も把握し、意欲を引き出すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを基に、個々人の生活リズムを大切にしながら充実した生活を送れるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を意識し、また整容する効果で、利用者の方が生き生きとされることを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前より嗜好調査をおこない、入居後も観察をしたり、利用者に伺いながら配慮している。毎日は難しいが、誕生会などで好きな物を食べていただく工夫をしている。調理などがお好きな方は積極的に台所に入れるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日チェックしている。献立は外部業者に委託。必要に応じ、高カロリーの栄養剤なども導入。水分摂取量はチェックが必要な方を対象に実施し、健康管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じた支援をおこなったり、訪問歯科診療のアドバイスなども受けながら対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用い、個々人の状態を把握して出来るだけ失敗による不快や自尊心低下の防止・生活保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動など便秘に対して有用で生活の中で工夫できる事を多く取り入れている。看護師のアドバイスなども組み込んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとり、のんびりと入浴して頂く事を心掛けている。曜日・時間帯の配慮まではなかなか出来ていないのが現状である。安全面で福祉機器などの導入も検討も随時している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にのんびりとした時間を作ったりしている。安眠できるように午前中の日光浴などを心がけている。また適宜個別に昼寝などもおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用は、医療従事者に判断をおおぎ、観察に努めている。薬の内容や服用後の観察は適切におこなえるよう対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを基に、ご本人の意欲向上につながる取り組みをおこなっている。個別や集団で楽しんだり、役割を担っていただいたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り自由に出かけられる環境を整備している。また、ご家族の自発的な協力も見られている。個別アクティビティも定期的実施している。心身機能が重度の人の外出支援が少なくなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持などは能力に応じて行っている。また、使用時も同様。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えたり、手紙のやりとりも自由にとれるような対応になっている。居室に電話を設置できる体制となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系の電球を用い、暖かみを装っている。また、リビングの壁に季節の切絵などを飾ったりしている。声・足音・テレビの音量など「不快」を「快」にすることを常に意識して対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	さりげなくソファをおいたり、リビングよりあえて見えにくい場所を何か所か設け、活用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、使い慣れたもの・愛着のあるものを持ってきていただき、且つ混乱しない事が「家」として重要な要素であることを説明しながら、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極端な施錠などは一切行わず、能力に応じた安全配慮を行っている。また、身体の障害に適したバリアフリー構造・場所が分からない方に対し目印をしたりの工夫を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホーム
横浜ゆうゆう

作成日 令和2年3月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	13 52	5S（整理、整頓、 清掃、清潔、躰）活 動が行き届かず、業 務や衛生面などに課 題が出てくる可能性 がある。	ご入居の皆様が安心 して暮らせ、職員も 働きやすい環境作り に取り組む。	年間の5S活動につ いてのマニュアルな どを整備していく。	1年
2	33 34	認知症の症状などの 区別があいまいなケ アが見られる。	様々な認知症の症状 に対する適切な対応 をおこなう。	年5回の全体職員会 議で勉強会などをお こない、振り返りも 実施していく。	1年
3	48	ご利用者の状況、人 材育成の視点より業 務の整理、マニユア ルの整備が必要にな っている。	ご利用者の状態に合 わせた業務の整理、 マニユアルの整備を おこなっていく。	年5回の全体職員会 議で勉強会などをお こない、振り返りも 実施していく。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。